

検討のための資料

1. 「文化観光」の推進の検討
2. 文化観光に関する拠点に関し、検討を深めたい観点
3. 事例Ⅰ： 国立博物館の改革
4. 事例Ⅱ： 文化庁における博物館クラスター事業
5. 事例Ⅲ： 日本遺産
6. 事例Ⅳ： 地域で個別に進展している取組

1. 「文化観光」の推進の検討

- 「観光立国推進基本計画（平成24年3月）」では、「文化観光とは、日本の歴史、伝統といった文化的な要素に対する知的欲求を満たすことを目的とする観光である」と位置づけている。
- 博物館などの文化施設が、様々な文化資源の展示・解説を充実させ、その際、より多くの人々に親しまれる活動をあわせて行うことで観光に貢献する活動が見られることから、「文化資源の観覧など文化についての理解を深めることを目的とする観光」を「文化観光」として、その推進を具体的に検討してはどうか。

- 訪日外国人観光客のうち29.3%が美術館・博物館を訪問し、26.4%が日本の歴史・伝統文化の体験をするなど（2018年観光庁調査、複数回答）、博物館等の文化資源は観光振興に極めて大きな役割を果たす。
- 各国の博物館も多数の観光客を集めており、我が国の博物館も高いポテンシャルを有している。

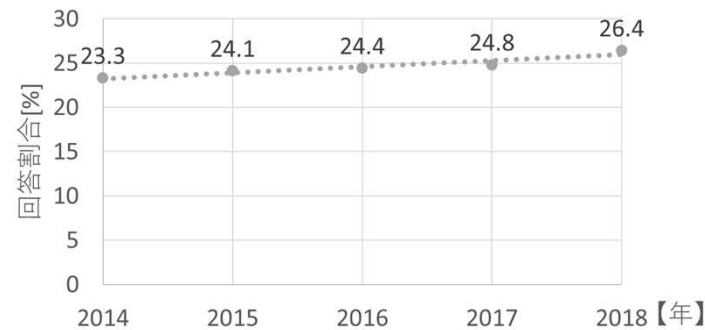
○訪日客に対して文化施設が有するポテンシャルの例

外国人旅行客が滞在中に経験したこと

「美術館・博物館」と回答した割合



「日本の歴史・伝統文化体験」と回答した割合



博物館のポテンシャル

海外ミュージアム 年間入場者数

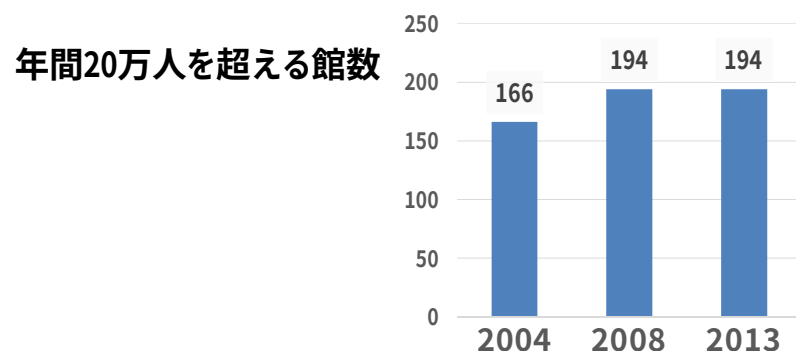
ルーブル美術館	1020万人
中国国家博物館	861万人
メトロポリタン美術館	736万人
バチカン美術館	676万人

（出典 米エイコム社「テーマパーク・博物館インデックス2018」）

（出典 観光庁「訪日外国人の消費動向」）

参考1：文化施設の代表事例である博物館への入館者数

- 年間20万人以上の館数は2004年から増加傾向。
- 種類別では2,258箇所の博物館のうち、美術系473館のうち9.7%、歴史系1,048館のうち3.1%、自然史系92館のうち8.7%、総合博物館109館の7.3%が20万人以上となっている。(2012年時)
- 地域住民に加えて、一定割合の観光目的の来館者も少なくないと想定される。



国内ミュージアム 年間入場者数 (2018年度)	
国立科学博物館	266万人
国立新美術館	261万人
金沢21世紀美術館	258万人
お台場 チームラボ	231万人

(出典 総合ユニコム社「月刊レジャー産業資料2019.09」)

表4-3-1 入館者数

		N =	平成24年度年間入館者数（%）										
			5千人未満	5千人～1万人未満	1万人～3万人未満	3万人～5万人未満	5万人～10万人未満	10万人～20万人未満	20万人～30万人未満	30万人～50万人未満	50万人～100万人	100万人以上	無回答
全体		2,258	25.3	13.6	23.3	8.5	9.6	8.0	3.3	2.5	1.8	1.0	3.2
館種	総合	109	10.1	8.3	28.4	12.8	20.2	9.2	2.8	2.8	1.8	0.0	3.7
	郷土	285	47.7	15.8	23.5	4.9	3.5	1.8	0.4	0.0	0.0	0.0	2.5
	美術	473	17.8	12.7	23.7	9.5	12.7	9.5	4.4	2.7	1.7	0.8	4.4
	歴史	1,048	30.5	16.4	25.4	8.2	7.9	5.8	1.2	1.0	0.3	0.6	2.6
	自然史	92	15.2	15.2	22.8	13.0	12.0	8.7	2.2	3.3	2.2	1.1	4.3
	理工	103	1.9	4.9	14.6	14.6	19.4	22.3	12.6	4.9	3.9	1.0	0.0
	動物園	43	0.0	0.0	4.7	0.0	2.3	20.9	18.6	25.6	20.9	7.0	0.0
	水族館	53	1.9	0.0	3.8	3.8	9.4	15.1	17.0	13.2	13.2	15.1	7.5
	植物園	40	7.5	5.0	22.5	10.0	10.0	20.0	10.0	2.5	5.0	0.0	7.5
	動水植	12	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0	25.0	0.0	16.7	25.0	0.0	16.7

(出典 公益財団法人日本博物館協会「日本の博物館総合調査報告書(平成29年3月)」)

参考2：博物館への来訪者の利便性に関する現状

- 都道府県・政令市立の主要館において、4か国語以上の解説板を実施しているのは6%あり、一層の取り組みが課題。
- 視覚障害者用の展示解説パネルなど、利便性の向上課題。

多言語化の対応状況

公立博物館の多言語対応	N＝県立・政令市立のうち154館	
パンフレット 日中英韓など4か国語以上	79館	51%
解説版 日中英韓など4か国語以上	10館	6%

文化庁企画調整課による調査

公立博物館の来館者数	総数	1館あたり平均
154館の年間来館者数	3785.2万人	24.6万人
うち外国人来館者をカウントしている93館	2534.1万人	23.893万人
93館の外国人来館者数	93.1万人	1.0万人 (3%)

文化庁企画調整課による調査

バリアフリーの対応状況

	保有館園数	比率(%)
障害者用トイレ	1,705	75.5
障害者対応エレベーター	940	41.6
車イス	1,684	74.6
視覚障害者用展示解説パネル	175	7.8
字幕スーパー入り映像	218	9.7
乳幼児のための部屋	555	24.6
ベビーベッド	628	27.8
ベビーカー	715	31.7
託児専門員の配置	13	0.6

(出典 公益財団法人日本博物館協会「日本の博物館総合調査報告書(平成29年3月)」)

参考3：文化観光拠点の整備に関する方針

○観光ビジョン実現プログラム2019 (令和元年6月14日観光立国推進閣僚会議決定)

○インバウンドに対応した新たな文化観光拠点の整備

- ・ 観光誘客に必要な一定の基準を満たす文化観光拠点に対し、法令上の措置等を検討することにより、日本文化の発信及び観光振興を図る。[新規]

○経済財政運営と改革の基本方針2019 (令和元年6月21日閣議決定)

第2章 Society 5.0時代にふさわしい仕組みづくり

③ 文化芸術立国の実現

国等の地方ゆかりの文化資産等の公開促進や国立文化施設の機能強化、アート市場の活性化など、文化施設を拠点とした文化資源の好循環創出に民間や地方と連携して取り組む。

○まち・ひと・しごと創生基本方針 (令和元年6月21日閣議決定)

V. 各分野の施策の推進

1. 地方にしごとをつくり安心して働けるようにする、これを支える人材を育て活かす

(4) 観光地域づくり・ブランディング等の推進

[具体的取組]

◎地域におけるインバウンドに対応した新たな文化観光拠点の整備等

- ・ 国等の名品を展示するなど地方博物館の特色ある取組及びインバウンドに対応した文化観光拠点を整備する新たな枠組の検討等を進め、日本文化の発信等を図る。

2. 文化観光に関する拠点に関し、検討を深めたい観点

1. 文化観光に関する拠点としての機能を強化する取組として、以下のような取組が考えられるのではないか。

- (1) 文化施設の持つコレクションやコンテンツの魅力を高め、国内外の幅広い来訪者に伝えていく施設であることをそのミッションの一つとして明確にする。
- (2) 来訪者が文化への理解を深めることができる分かりやすい解説や展示上の工夫をする。
(例：海外からの来訪者への多言語解説や、情報通信技術を活用した映像を用いた展示 等)
- (3) 文化施設と地域が一体となった、さまざまな鑑賞や体験など来訪者が楽しめる機会を提供する。
- (4) 文化施設だけでは取り組めない来訪者のアクセス向上に取り組む。
(例：郊外にある文化施設へのアクセス向上のため、交通事業者と連携した増便や共通乗車船券の発行 等)
- (5) JNTOや地域の観光関係事業者との連携による、文化施設の魅力の発信と、幅広い来訪者を惹きつける戦略や効果的なプロモーションを行う。
- (6) 文化施設の周辺地域との連携により地域の魅力を向上させる。
(例：公園や道路にオブジェを設置して文化観光地としての魅力向上、商店街（飲食、物販等）との連携)
- (7) 文化観光に関しての適切な価格設定による持続可能性を高める。

2. こうした活動を推進するため、予算・税制・国による特別な措置が考えられるのではないか。

参考4:文化審議会(博物館部会)における検討とこの会議との関係①

1. 博物館政策の検討の場の設置
 - 博物館による社会教育の振興が文化庁の所管になったことを受けて、本年11月、文化審議会に博物館部会を設置し、博物館の総合的な検討を開始。
 - ・ ICOM京都大会での国際的な議論を反映しつつ、前回(平成20年)の博物館法改正後の課題を洗い出し
2. 国立館での先進事例・好事例の創出とその横展開
 - 東京国立博物館「トーハク改革プラン」(H31.2)、国立科学博物館「科博イノベーションプラン」(R1.7.)に代表される改革の推進。
 - ・ わかりやすい展示や多言語化など、快適な観賞環境の整備と入館者サービスの充実
 - ・ 収蔵品の収蔵環境向上のための必要な調査・改修の実施
 - ナショナルセンターとしての全国の博物館への支援。
 - ・ 「文化財活用センター」「科博イノベーションセンター」による収蔵品の活用促進
 - ・ 「文化財防災ネットワーク」による防災に関する各館支援
 - ・ 収蔵品データベースの整備と公開
3. 各地の博物館における活動支援の充実
 - 博物館が地域と共働する事業への支援充実。
 - ・ 子供たち・高齢者等へのアウトリーチ、インバウンド受入支援のスタートアップなど
 - ・ 地方分権一括法により、社会教育の適切な実施の確保に関する一定の担保措置を講じた上で、公立博物館の首長所管が可能(今年6月～)となっており、地域における博物館政策を一層、総合行政に位置づけ可能に
 - 研修の充実、修理・修復への支援。
 - ・ 専門職員の研修の充実(特に、海外派遣)
 - ・ 重要文化財の美術工芸品等の収蔵品に関する修理・修復への支援
 - 魅力的な展示・企画に関する支援
 - ・ 国立館等が持つ地方ゆかりの文化資産の地域への貸与等支援(新規)
 - ・ 「日本博」の一層の活用

参考4：文化審議会（博物館部会）における検討とこの会議との関係②

3. 各地の博物館における活動 支援の充実（続）

- 「施設設備の改修・整備」に関する支援。
 - ・ 防火設備等の緊急調査を踏まえ、老朽化した設備の改修を支援
 - ・ 公立社会教育施設災害復旧
 - ・ 公立博物館の施設の長寿命化のための「公共施設等適正管理推進事業債」の活用

4. 博物館の活動基盤の整備

- 「博物館を中核とした文化クラスター形成事業」の推進。さらに、文化振興、地域の活性化、経済の活性化の観点から、意欲ある博物館に対し、予算・税制・関係省庁との連携施策を通じた支援（新たな制度の創設の検討）。
- 博物館で活用可能な他省庁の事業や税制優遇などの情報を一覧化・提供。
- 「ジャパンサーチ」等による博物館に関するデジタルアーカイブの内容充実。
- 博物館のうち美術館支援施策の一層の活用。
 - ・ 登録美術品制度の一層の活用（現在、80件9,234点の美術品が登録）
 - ・ 美術品補償制度（海外等から借り受けた美術品に損害が生じた場合に、その損害を政府が補填する制度。これまで37件の展覧会が対象）の一層の活用

○上記に関する議論

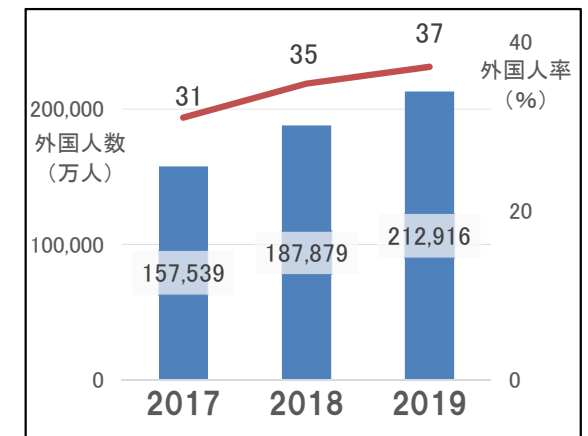
- (1) 博物館の制度と運営に関する幅広い課題は、一定の期間をかけて整理・検討する。
- (2) 博物館の振興施策は、今日的な課題も踏まえながら整理・対応することが期待されており、そのうち観光・まちづくりとの連携施策について機動的な体制も整えて集中的に検討する。

3. 事例Ⅰ：東京国立博物館の改革

東京国立博物館は、2019年2月に、「トーハク新時代プラン」を発表し、「世界中の人々が楽しめるリーディング博物館」となるための改革プランを進めている。

- 1 世界に開かれた博物館としての取り組み (多言語対応の改善・充実)
 - (プラン①) 外国人にもわかりやすい展示解説の工夫 (→次ページ)
 - (プラン②) 多言語対応型の新しい鑑賞ガイドアプリの導入
 - (プラン③) 外国人を対象とするガイドツアーの拡充
- 2 付加価値の高い多彩なプログラムの提供
 - (プラン④) レプリカ・VR・8K映像等を活用した新感覚の展示の拡大
 - (プラン⑤) 展示と連動した日本文化体験プログラムの拡充
 - (プラン⑥) 「見せる修理所」の開設とバックヤードツアーの本格導入
 - (プラン⑦) 庭園を全面改修して通年開放を実現
- 3 快適な鑑賞環境の実現
 - (プラン⑧) 展示ケース・照明・内装など展示室の全面リニューアル
 - (プラン⑨) デジタルサイネージの導入など館内案内(サイン)の刷新
 - (プラン⑩) 早朝開館・夜間開館など開館時間の柔軟な設定
 - (プラン⑪) カフェの増設と休憩スペースの整備
- 4 プランを実現するための基盤の確保
 - (プラン⑫) スタッフの確保と研究活動の推進
 - (プラン⑬) 入館料の見直しの検討

東博の常設展(総合文化展)の
外国人来館者数と外国人率



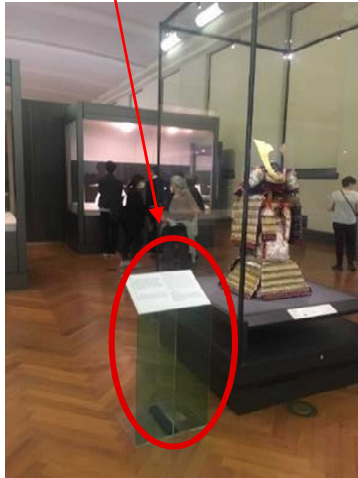
(毎年度4～9月のデータを集計)

東京国立博物館の(プラン①)外国人にもわかりやすい展示解説の工夫

- 各展示室の多言語解説を、日本の歴史・文化に親しみのない訪日外国人観光客にもわかりやすい内容となるよう、全面的に書き直し。
- 特に、訪日外国人観光客に人気の高い本館・総合文化展(平常展)は、コンセプトの統一性やストーリー性を考慮し、各展示室内のコーナー解説を増設するとともに、各展示室の展示室解説(入口解説)を刷新。主要作品解説は、展示替えの時期等に合わせて、順次点検・書き直し。

【例：外国人にも分かりやすい展示解説の充実】

今年2月に館内60箇所に
「コーナー解説」を新設



平易な言葉で文化
や歴史を説明

直訳でなく、
各言語での
分かりやす
さを重視

ネイティブスピーカーの意見や海外博物館の
慣用表現を参考にしながら改良

新設した「コーナー解説」例【刀剣・刀装具】

すべて4か国語で表記

刀剣(太刀と刀)

太刀と刀では、左腰への装着の仕方と、装着した際の刃の向きが異なります。太刀は主に騎馬戦で使用されたもので、刃を下にして腰帯から紐で吊り下げて着用します。刀は主に徒歩集団戦で使用されたもので、刃を上にして腰帯に差し込んで着用します。およそ五百年前を境に、合戦のあり方が騎馬戦から徒歩集団戦へと変化するのに合わせて、馬上で振るう太刀から、より実戦的な刀へと移行します。

Japanese Swords: Katana and Tachi

This gallery includes katana and tachi, the two major types of Japanese swords. The tachi is an older and longer type of sword that was designed for mounted combat. Sheathed tachi were hung from the belt with the blade facing down. In contrast, the katana was created later mainly for fighting on foot. Sheathed katana were tucked directly into the belt with the blade facing up. The shift from the tachi to the katana was spurred by changes in warfare: about 500 years ago mounted combat became less common as generals began to rely on large infantry formations. When viewing this gallery, note that the way we display our swords reflects how they were worn: the tachi have their blades facing down, while the katana face up.

刀剣(太刀与刀)

太刀与刀通常都佩戴于腰间左侧，但佩戴方式与佩戴时刀刃的朝向却不尽相同。太刀主要在骑兵交战中使用，刀刃朝下用绳纽悬挂于腰带上。刀则主要用于步兵交战，刀刃朝上插在腰间。大约以五百年前为分界线，交战方式从骑马作战转变为徒步作战，为了应对这种变化，战争中使用的武器也从适合乘骑在马背上挥舞的太刀转变为适应实战的刀。

도검(다치와 가타나)

일본도는 크게 다치(太刀)와 가타나(刀)로 나눌 수 있습니다. 그 차이는 허리 왼쪽에 차는 방식과 칼을 찌를 때 날의 방향에 있습니다. 다치는 주로 기마전에서 사용되었기 때문에, 동근 날이 아래를 향하게 한 채 허리띠에 끈으로 매달아 착용합니다. '큰 칼(太刀)'이라는 이름처럼 말 위에서 휘두르기에 알맞게 길이가 긴 경향이 있습니다. 가타나는 주로 집단으로 이루어지는 도보전에 사용되었기 때문에, 동근 날이 위를 향하게 한 채 허리띠에 꽂아 착용합니다. 집단전에서 다루기 쉽도록 길이는 다치보다 짧은 경우가 많습니다. 약 500년 전을 기점으로 전투 방식이 기마전에서 도보전으로 변화함에 따라, 도검의 종류도 다치에서 가타나로 이행하게 되었습니다.

4. 事例Ⅱ：博物館クラスター形成支援事業の事例(2018年度～)①

前橋エリア

事業名：表現により繋がる地域の活力創造事業
構成団体：群馬大学、前橋市教育委員会、前橋文学館

学校でアーティストが学生と創作活動するアーティスト・イン・スクール・プログラム、引きこもりの方の自立支援プログラム、高齢者向けのワークショップ、母子生活支援施設入所者の交流プログラムなどを実施し、文化による社会包摂の体制を構築。



わかば小学校「わかば美術館」 特別養護老人ホームえいめいでの活動

上野エリア

事業名：上野「文化の杜」クラスター形成事業
構成団体：東京国立博物館、台東区、上野観光連盟、JR東日本、上野学園、京成電鉄株式会社、東京地下鉄株式会社 等

美術館や博物館などの文化施設が集結している上野地域を文化クラスターとし、各施設が連携したアクセシビリティの強化、各館の課題の解決など、上野モデルを構築する。



東京都

事業名：文化財の新たな魅力発信プロモーション事業
構成団体：国立西洋美術館・東京都歴史文化財団・東京地下鉄株式会社 等

夜の経済活動活性化のため、国立・都立の美術館・博物館7館をまわり、各館の作品・建築等を鑑賞してそこに隠された「謎」を解くミステリーラリーを実施。



横浜エリア

事業名：よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業
構成団体：横浜市歴史博物館、横浜開港資料館、横浜市教育委員会、富士ゼロックス株式会社デバイス開発本部IPF開発部 等

文化クラスターを中心に、広く認知されていない古民家や遺跡公園などを「B級」「原石」と位置付け、交流拠点として、地域の文化遺産を紹介する啓発事業や観光資源化イベントを実施。



遺跡フェスタ内のマルシェ



博物館クラスター形成支援事業の事例(2018年度～)②

伊豆エリア

事業名：伊豆高原文化観光施設・ジオパーク融合型クラスター形成事業

構成団体：池田20世紀美術館、崔如琢美術館、伊豆テディベアミュージアム、伊東市、伊東観光施設協議会 等

IT技術を基軸としたインフラ構築、マーケティング戦略を導入し、データに基づく文化観光施設の活性化をパッケージ化し、伊豆高原の文化資源及び自然資源（ジオパーク）をつなぐ観光活性化スキームを文化クラスターを構築する。



奈良エリア

このほか、令和元年度に「太宰府エリア」が追加
(九州国立博物館、福岡県九州歴史資料館、太宰府市、
太宰府観光協会、太宰府市商工会、太宰府天満宮)

事業名：奈良国立博物館を中核とした奈良県版文化クラスター形成事業

構成団体：奈良国立博物館、奈良県立美術館、興福寺、春日大社、東大寺

奈良公園を中心とする奈良国立博物館や春日大社、東大寺等で構成する文化クラスターを形成しアートや音楽の祭典のほか共通入館券事業など文化クラスター内の集客増加を図り、周辺地域との回遊を促進する。

倉敷エリア

事業名：倉敷美観地区・MUSEUMクラスター事業

構成団体：公益財団法人大原美術館、公益財団法人倉敷民芸館、公益財団法人倉敷考古館、倉敷商工会議所、公益社団法人倉敷観光コンベンションビューロー

大原美術館を中核とした、倉敷美観地区の文化クラスターを形成し、訪日観光客向けの多言語化対応、ユニークベニューによる各施設の活用、市民のシビックプライドを醸成。ホテル、観光施設、大学等との連携事業や訪日観光客に対するガイドスタッフの育成など実施する。



北九州エリア

事業名：北九州市東田地区ミュージアムパーク創造事業

構成団体：北九州市立自然史・歴史博物館、北九州市、八幡東区役所、公益財団法人北九州国際交流協会、公益財団法人北九州産業学術推進機構、北九州市役所、北九州市立児童文化科学館 等

北九州市自然史・歴史博物館を中心に、東田地区に点在する文化施設や世界遺産を文化クラスターとして面的に結び付け、観光客等の回遊性を高め、2020年に東田地区でアートフェスティバル「ART for SDGs（仮称）」を開催。



参考5：文化庁における博物館関係予算要求（令和2年度）

令和2年度要望額 2,400百万円
(前年度予算額 1,144百万円)

博物館をはじめ文化施設の機能強化

地域と共働した創造活動支援事業

- ・博物館の持つ文化資源を地域と連携して、コミュニティ形成等に貢献するための取組。
- ・学校教育をはじめ、社会課題解決に貢献するための「スタートアップ」的な支援事業。

560百万円

博物館クラスター事業

- ・博物館を中核とした文化クラスター創出に向けた地域文化資源の面的・一体的整備の支援。
- ・博物館コレクション等の磨き上げ（調査・データベース・多言語等）に係る支援を追加。
- ・クラスター形成の中核を担う学芸員やインバウンド専門家を確保するなど、体制強化。
- ・バリアフリー、展示改修等の来館者利便性向上の機能。
- ・クラスター事業のエンジンとなる「ミュージアムクラスター・ステアリング・コミッティ」を設置し、クラスター事業全体の方針や調整、専門家等の人材紹介、評価を行い、クラスターで構築されたモデルを波及。

1,490百万円

博物館人材養成・質の向上

- ・資格付与 ⇒ 学芸員の養成
- ・学芸員資格認定試験の実施（例年100名受験、40名認定）
- ・研修 ⇒ 学芸員の質の向上
- ・博物館専門研修（学芸員中堅レベル）／博物館館長研修（館長1～2年レベル）
- ・ミュージアムマネジメント研修／ミュージアムエデュケーション研修
- ・学芸員の海外研修（10～15名派遣）

200百万円

博物館レガシー基盤強化

- ・博物館制度改善調査研究 ⇒ 文化審議会博物館部会にて検討
- ・海外ネットワーク構築 ⇒ 国際会議等への若手研究者等の派遣
- ・PPP等による持続可能な博物館構築 ⇒ コンセッション方針等の適用可能性調査

59百万円

5. 事例III: 日本遺産

主旨と目的

我が国の文化財や伝統文化を通じた地域の活性化を図るには、その歴史的経緯や、地域の風土に根ざした世代を超えて受け継がれている伝承、風習などを踏まえたストーリーの下に有形・無形の文化財をパッケージ化し、これらの活用を図る中で、情報発信や人材育成・伝承、環境整備などの取組を効果的に進めていくことが必要。

そこで、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組を支援。

世界遺産登録や文化財指定は、いずれも登録・指定される文化財 (文化遺産) の価値付けを行い、保護を担保することが目的。一方、本遺産は、既存の文化財の価値付けや保全のための新たな規制を図ることを目的としたものではなく、地域に点在する遺産を「面」として活用し、発信することで、地域活性化を図ることが目的。

日本遺産事業の方向性

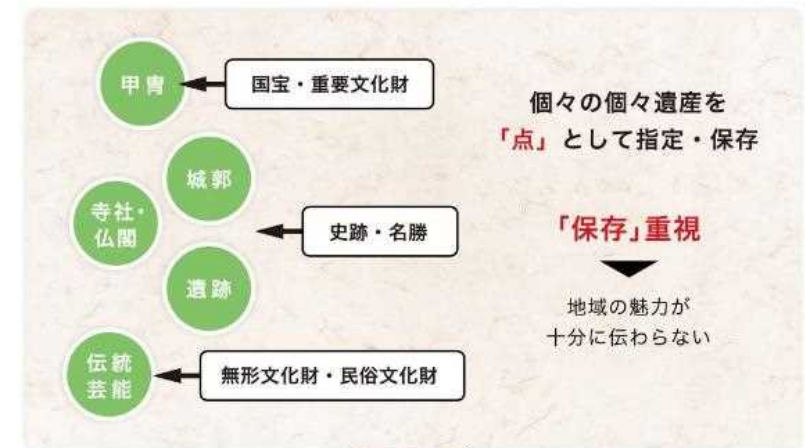
日本遺産事業の方向性は次の3つに集約。

- 1 地域に点在する文化財の把握とストーリーによるパッケージ化
- 2 地域全体としての一体的な整備・活用
- 3 国内外への積極的かつ戦略的・効果的な発信

認定による効果

「日本遺産」に認定されると、認定された当該地域の認知度が高まるとともに、今後、日本遺産を通じた様々な取組を行うことにより、地域住民のアイデンティティの再確認や地域のブランド化等にも貢献し、ひいては地方創生に大いに資すると考えられる。

従来の文化財行政



日本遺産



参考6： 令和元年度(2019年度)までに認定された日本遺産

日本遺産認定ストーリー所在地一覧

各地域の日本遺産をもっと詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

日本遺産ポータルサイト

<https://japan-heritage.bunka.go.jp/>

「日本遺産ポータルサイト」は文化庁が地域の歴史的魅力や特色をストーリーとして認定する日本遺産に関する情報を提供するために構築したサイトです。

このサイトでは日本遺産に認定された自治体が行う日本遺産に関するイベント情報、認定されたストーリーを構成する文化財の情報やお土産・グルメ情報等、様々な情報を検索することができます。

※本パンフレットの各地域紹介ページにあるQRコードから →
詳細な情報がご覧いただけます。



- 凡例
- シリアル型
…複数の市町村にまたがってストーリーが展開
 - 地域型
…単一の市町村内でストーリーが完結

日本遺産認定ストーリー一覧

〈平成27年度認定〉

	地 域	ストーリー
1	茨城県・栃木県・岡山県・大分県	近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－
2	群馬県	かかあ天下－ぐんまの絹物語－
3	富山県	加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡－人・技・心－
4	石川県	灯(あかり)舞う半島 能登 ー熱狂のキリコ祭りー
5	福井県	海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国(みけつくに)若狭と鯖街道～
6	岐阜県	「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜
7	三重県	祈る皇女斎王のみやこ 斎宮
8	滋賀県	琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産
9	京都府	日本茶800年の歴史散歩
10	兵庫県	丹波篠山 デカンショ節 ー民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶－
11	奈良県	「日本国創成のとき～飛鳥を翔(か)けた女性たち～」
12	鳥取県	六根清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のランド泉～
13	鳥根県	津和野今昔～百景園を歩く～
14	広島県	尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市
15	愛媛県・高知県・徳島県・香川県	「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～
16	福岡県	古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～
17	長崎県	国境の島 壱岐・対馬・五島 ー古代からの架け橋ー
18	熊本県	相良700年が生んだ保守と進取の文化 ー日本でもっとも豊かな隠れ里-人吉球磨ー

〈平成28年度認定〉

19	宮城県	政宗が育んだ“伊達”な文化
20	山形県	自然と信仰が息づく「生まれかわりの旅」 ～樹齢300年を超える杉並木につつまれた2,446段の石段から始まる出羽三山～
21	福島県	会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往時の会津の文化～
22	福島県	未来を拓いた「一本の水路」－大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代－
23	千葉県	「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」 ー佐倉・成田・佐原・銚子:百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群ー
24	神奈川県	江戸庶民の信仰と仰楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～
25	神奈川県	「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまち～
26	新潟県	「なんだ、コレは!」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化
27	石川県	「珠玉と歩む物語」小松 ー時の流れの中で磨き上げた石の文化～
28	長野県	木曽路はすべて山の中～山を守り 山に生きる～
29	岐阜県	飛騨匠の技・こころ ー木とともに、今に引き継ぐ1300年ー
30	兵庫県	「古事記」の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～
31	奈良県	森に育まれ、森を育んだ人々の暮らしとこころ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～
32	和歌山県	鯨とともに生きる
33	鳥取県	地藏信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市
34	鳥根県	出雲國たたら風土記 ー鉄づくり千年が生んだ物語～
35	広島県・神奈川県・長崎県・京都府	鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴 ー日本近代化の躍動を体感できるまち～
36	愛媛県・広島県	“日本最大の海賊”の本拠地:芸予諸島～よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶～
37	佐賀県・長崎県	日本磁器のふるさと 肥前 ー百花繚乱のやきもの散歩～

凡例

● シリアル型…複数の市町村にまたがってストーリーが展開

● 地 域 型…単一の市町村内でストーリーが完結

〈平成29年度認定〉

	地 域	ストーリー
38	北海道	江差の五月は江戸にもない ーニシンの繁栄が息づく町ー
39	北海道・青森県・秋田県・山形県・新潟県・富山県・石川県・福井県・京都府・大阪府・兵庫県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・香川県	荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ー北前船寄港地・船主集落～
40	山形県	サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ
41	埼玉県	和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田
42	滋賀県・三重県	忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めてー
43	京都府	300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊
44	大阪府・奈良県	1400年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」ー竹内街道・横大路(大道)～
45	兵庫県	播但貫く、銀の馬車道 鉾石の道ー資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～
46	和歌山県	絶景の宝庫 和歌の浦
47	和歌山県	「最初の一滴」醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅
48	鳥根県	日が沈む聖地出雲 ー神が創り出した地の夕日を巡る～
49	岡山県	一輪の綿花から始まる倉敷物語 ー和と洋が織りなす繊維のまち～
50	岡山県・福井県・愛知県・滋賀県・兵庫県	きっと恋する六古窯 ー日本生まれ日本育ちのやきもの産地ー
51	高知県	森林鉄道から日本一のゆずロードへ ーゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化ー
52	福岡県・山口県	関門「ノスタルジック」海峡 ー時の停車場、近代化の記憶～
53	熊本県	米作り、二千年にわたる大地の記憶 ー菊池川流域「今昔「水稲」物語」～
54	大分県	やがけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく～

〈平成30年度認定

55	北海道	カムイと共に生きる上川アイヌ ー大雪山のふところに伝承される神々の世界～
56	山形県	山寺が支えた紅花文化
57	栃木県	地下迷宮の秘密を探る旅 ー大谷石文化が息づくまち宇都宮～
58	栃木県	明治貴族が描いた未来 ー那須野が原開拓浪漫譚～
59	富山県	宮大工の壁一丁から生まれた木彫刻美術館・井波
60	山梨県	葡萄畑が織りなす風景ー山梨県峡東地域ー
61	長野県・山梨県	星降る中部高地の縄文世界ー数千年を遡る黒曜石鉾山と縄文人に出会う旅ー
62	静岡県・神奈川県	旅人たちの足跡残る悠久の石畳道 ー箱根八里で辿る遙か江戸の旅路
63	和歌山県	「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～
64	岡山県	「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま ー古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～
65	広島県	瀬戸の夕風が包む 国内随一の近世港町～セピア色の港町に日常が溶け込む瀬の浦～
66	大分県	鬼が仏になった里「くにさき」
67	宮崎県	古代人のモニュメント ー台地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観ー

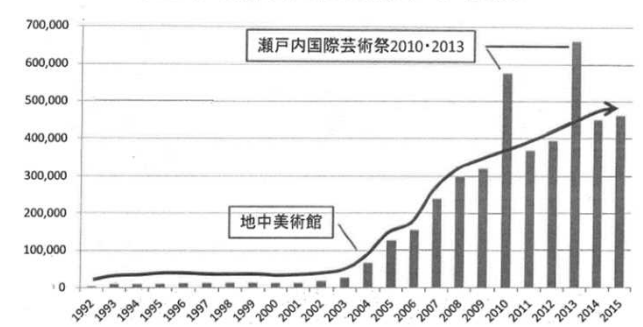
〈平成31年/令和元年度認定〉

	地 域	ストーリー
68	北海道	本邦国策を北海道に観よ!～北の産業革命「炭鉄港」～
69	宮城県・岩手県	みちのGOLD浪漫ー黄金の国シタング、産金はじまりの地をたどるー
70	群馬県	里沼(SATO-NUMA)ー「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化ー
71	福井県	400年の歴史の扉を開ける旅ー石から読み解く中世・近世のまちづくり 越前・福井～
72	愛知県	江戸時代の情緒に触れる絞りの産地ー藍染が風にゆれる町 有松～
73	三重県	海女(Ama)に出逢えるまち 鳥羽・志摩ー素潜り漁に生きる女性たち
74	滋賀県・岐阜県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県	1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～
75	大阪府	旅引付と二枚の絵図が伝えるまちー中世日根荘の風景ー
76	大阪府	中世に出逢えるまちー千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～
77	兵庫県	「日本第一」の塩を産したまち 播州赤穂
78	鳥取県・兵庫県	日本海の風が生んだ絶景と秘境ー幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」
79	鳥根県	神々や鬼たちが躍動する神話の世界ー石見地域で伝承される神楽～
80	岡山県・香川県	知ってる!?悠久の時間が流れる石の島ー海を越え、日本の礎を築いた せとうち備讃諸島～
81	徳島県	藍のふるさと 阿波ー日本中を集めた上げた至高の青を訪ねて～
82	鹿児島県	薩摩の武士が生きた町ー武家屋敷群「麓」を歩くー
83	沖縄県	琉球王国時代から連続と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」

6. 事例Ⅳ： 地域で個別に進展している取組 直島（香川県香川郡直島町）の概要①

- 直島は、面積8km²、人口約3000人。
- 株式会社ベネッセホールディングスと公益財団法人 福武財団、直島町がアート活動を展開。
- 観光客：年間約50万人。
- 瀬戸内国際芸術祭の開催など、地域全体の活性化に寄与。

直島・観光入込数(※)の増加



※ベネッセハウス、家プロジェクト、地中美術館、直島銭湯「♥湯」、
李禹煥美術館、ANDO MUSEUM、宮浦ギャラリー六区の入館者合計

直島錢湯「I♥湯」

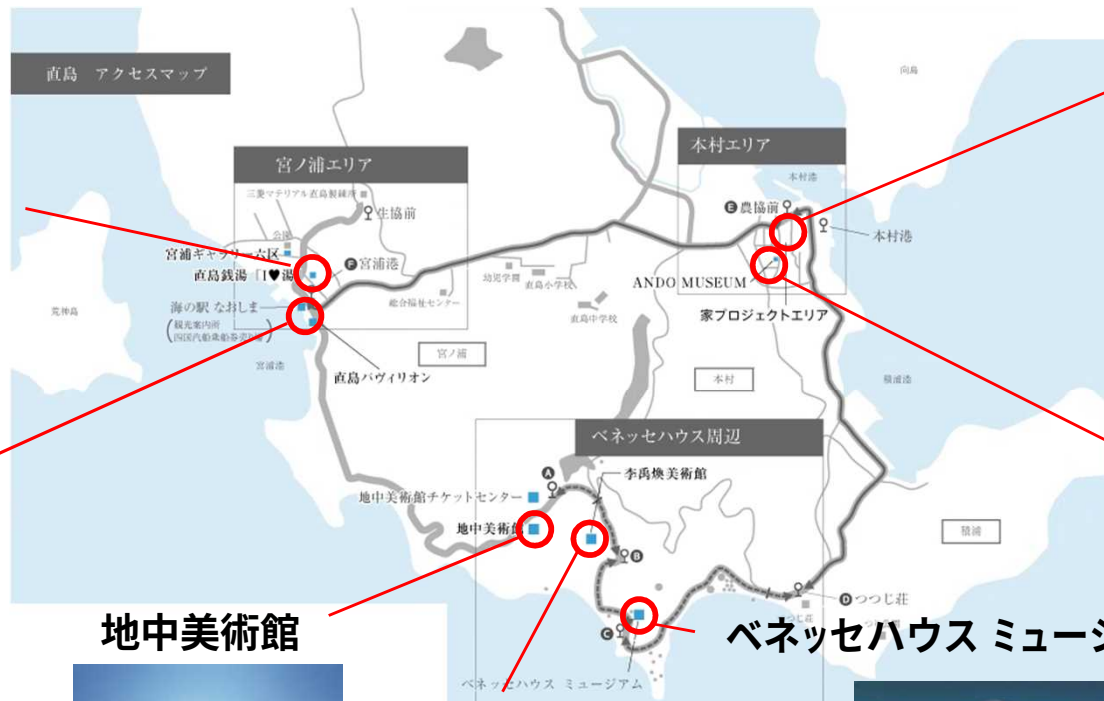


大竹伸朗 直島銭湯「I♥湯」
(2009)
写真:渡邊修

宮浦港



草間彌生「赤かぼちゃ」
2006年直島・宮浦港緑地



地中美術館



写真：藤塚光政

李禹煥美術館



写真：山本 紉

ベネッセハウス ミュージアム



写真：山本 紉

家プロジェクト



家プロジェクト「角屋」
写真：上野則宏

ANDO MUSEUM



写真：山本 紉

直島の概要② 観光客を惹きつける取組 (地中美術館の例など)

魅力的な文化資源

- ・安藤忠雄の設計の建築、モネの睡蓮のほか世界的に評価の高い作家のサイトスペシフィックの作品を展示



クロード・モネ「睡蓮・草の茂み」1914-17
提供：福武財団



地中美術館
写真：松岡満男



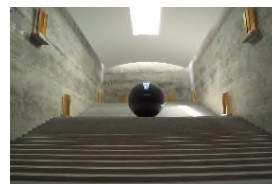
地中美術館
写真：藤塚光政

見せる工夫

- ・地下にありながら自然光のみで鑑賞。時間帯、天気、季節による変化により、作品や空間の見え方が変化
- ・パンフレットは、日・英・韓の3か国語
- ・モネが造園した庭の植物をベースにし、睡蓮などの植物を楽しめる庭を設置
- ・プライベートツアー有（スタッフが建築・作品・空間について鑑賞をサポート）



地中の庭
写真：鈴木研一



ウォルター・デ・マリア「タイム/タイムレス/ノー・タイム」2004
写真：Michael Kellough

観光関係事業者との連携

- NPO法人 直島町観光協会
- ・直島の観光スポット・宿泊施設・土産店等をまとめたWEBサイトを運営



協議体（直島町、船会社等）

- ・瀬戸内国際芸術祭期間中、臨時バスの手配や島内各施設での受け入れの準備など、観光客の利便性・快適性向上のための情報共有と発信を直島町や地元事業者が連携して、実施

満足度向上の取り組み

- ・作品の鑑賞とともに、カフェやオリジナルグッズにより満足度を向上
- ・チケット及びショップ等はクレジットカード決済対応



地中カフェ
写真：清水健夫

情報発信

- ・「Traveler」「Lonely planet」、BBC、WALL STREET JOURNALなどで特集されることで海外からも注目を浴びる。

直島の概要③ 地域を巻き込んだ取組

香川県

自治体の文化観光戦略(香川せとうちアート観光圏整備計画)

- ・国内外からの観光客が2泊3日以上滞在交流型観光を目指す
- ・計画に基づく事業は、公益社団法人香川県観光協会を中心に、県や市町、市町観光協会等をはじめ、多様な関係団体が連携して実施

瀬戸内海周辺

自治体と地元事業者等との連携
(瀬戸内国際芸術祭)



撮影者:中村脩

- ・瀬戸内海の12の島と宇野港(岡山)・高松港(香川)で3年に1度開催
- ・実行委員は、香川県、市町村、福武財団を始めとした自治体、各種団体及び地元企業等の長で構成
- ・瀬戸内国際芸術祭2016は104万人が来場。(外国人比率:13.4%)※

※出典 瀬戸内国際芸術祭実行委員会「瀬戸内国際芸術祭2016 総括報告」



直島

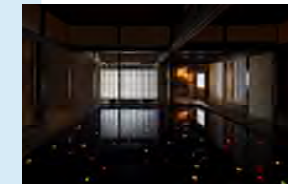
アクセスの利便性
(宮浦港)



草間彌生「赤かぼちゃ」
2006年直島・宮浦港緑地

- ・香川県と岡山県からフェリー等が乗り入れるほか、クルーズ船も寄港
- (参考)宮浦港へのフェリー・小型旅客船の便数
香川県:1日往復10便/岡山県1日往復20便
※その他、本村港、風戸港にも乗り入れ
- ・港には草間彌生の作品を展示

地域住民との連携
(家プロジェクト)



家プロジェクト「角屋」
宮島達男 "Sea of Time '98"
写真:鈴木研一

- ・島内の古い家屋を改修し、アーティストが家の空間そのものを作品化するアートプロジェクト
- ・直島の生活圏の中で、観光客と住民の交流を生んでいることが特徴



金沢21世紀美術館 (石川県金沢市) の概要①

○「新しい文化の創造」と「新たなまちの賑わいの創出」を目的に
平成16年10月に開館。

○金沢市文化スポーツ局が所管。

(公財) 金沢芸術創造財団が指定管理者として施設運営。

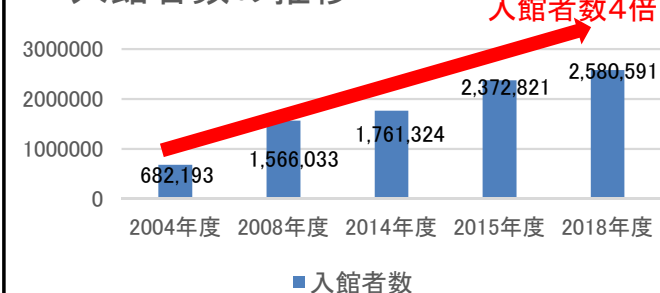
○2018年度の入館者数は**258万人**(*)。

開館時の約**4倍**(外国人割合は約**8%**)。

*全国の博物館・美術館で第**3位**(*月間レジャー産業資料9月号参照)

○ミュージアムとまちとの共生により、新しい金沢の魅力と活力を創出。

入館者数の推移



長屋武家屋敷跡通り



金沢城公園



金沢21世紀美術館



兼六園

金沢21世紀美術館の概要② 地域住民・観光客を惹きつける取組

魅力的な文化資源

4ヶ所の入口から成る
有機的かつ開放的な
丸い建物



入館料不要のフリー
ゾーン(恒久展示作
品8割を鑑賞・体験



市民の交流の場
博物館

交流ゾーン
22時まで開館

気軽に立ち寄れる
オープンな建物



スイミングプール(レアンドロ・
エルリッヒ)

まちに活き、市民とつくる、参
加交流型美術館

多様な現代アート展覧会の展開

(特別展)

- 「アイ・チョー・クリスティン 霊性と寓意」
- 「起点としての80年代」
- 「チウ・ジージェ 書くことに生きる」
- 「変容する家」

(コレクション展)

- 「見ることの冒険 / ルナ・イスラム」
- 「アジアの風景 / 栗津潔、マクリヒロゲル5」
- 「デザインギャラリー」



子どもたちとともに、成長する美術館

4つの
ミッション

世界の「現在(いま)」とともに生きる美術館

子どもたちとともに成長する美術館

- ・市内小学校のサマースクールプログラム
- ・市民向け無料観覧日の提供(市民美術の日10/20)
- ・多彩な一般、子ども向けプログラム
休日 年95回、7,000名参加
平日 年160回、6,400名参加
- ・中学生向けアートスクール
- ・アートライブラリー・プログラム 等



地域の伝統を未来につなげ、世
界に開く美術館

市民とつくる参加交流型美術館

- ・広場や交流ゾーンに市民やボランティアの自主活動の場を創出(まるびいみらいカフェ)
- ・広場等を活用した芸術交流事業
ARTS PLANET 2018~こども∞ディスカバリー!
(GWに実施。7,419名参加)
Weekend まるびい Art-Complex
(毎週末、多彩なアーティストが集合)



金沢21世紀美術館の概要③ 地域を巻き込んだ取組



ミュージアム・クルーズ

・金沢市内の小学4年生全児童
を対象とした鑑賞事業

＜規模＞

市内小学校62校、4,393名
市民ボランティア77名参加



アートdeまちあるき / サポートショップ

・市内の商店街をサポートショップとした
来館者サービス事業

＜規模＞

各店舗 (273店舗) に置かれた美術館ロ
ゴをあしらったコースター持参の割引



金沢ナイトミュージアム

・金沢市内の17の文化施設で毎週末夜
8時までの夜間開館と多彩なイベントを
実施

＜規模＞

35事業 (7月-10月)
1,787名参加



デジタルアートイベント
(金沢21世紀美術館広場)



湯桶ぼんぼり祭り
(金沢湯桶夢二館)

青山剛昌ふるさと館 (鳥取県北栄町) の概要①

○鳥取県北栄町の概要

面積57km²、人口約15,000人。

○青山剛昌ふるさと館の概要

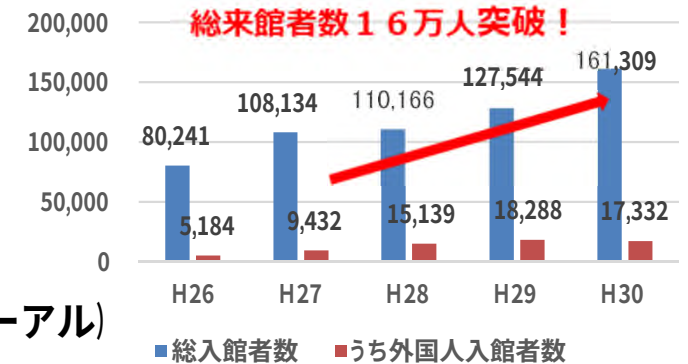
実施主体: 北栄町

入館者数: 平成30年度16万人 (うち外国人1万7千人)。

敷地面積: 5,289m²、延床面積: 891.27m² (鉄骨コンクリート2階建)。

開館日: 平成19年3月18日 (北栄町大栄歴史文化学習館を全面リニューアル)

総入館者数の推移



青山剛昌ふるさと館の概要② 観光客を惹きつける取組

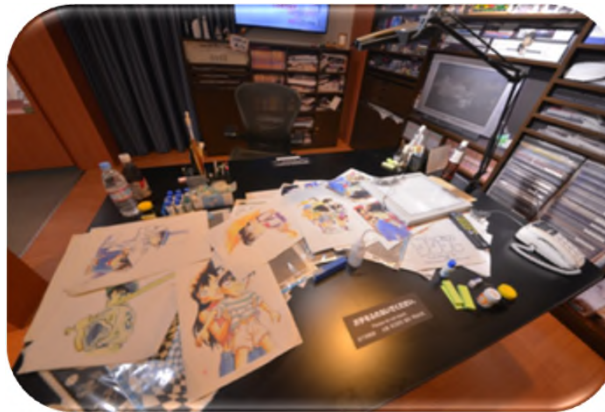
- 平成19年3月、「名探偵コナン」の原作者・青山剛昌氏の出身地である鳥取県北栄町にオープン。
- 町全体で「名探偵コナンに会えるまち」づくりに取り組み、国内外の観光客から人気を集める。
- 平成30年には、総入館者数16万人、累計入館者数が100万人を突破。

魅力的な文化資源



- ・青山先生の直筆の原画
- ・青山先生の学生時代の作品

見せる工夫



- ・青山先生の仕事部屋を再現
- ・作品中のトリック等の再現
- ・館内、コナン通りでの多言語標記

まんがを活かしたまちづくり



- ・住民票など、証明用紙にコナン君の透かしを採用
- ・公用車にPRステッカーを貼付
- ・マラソン大会にコナン君のデザインTシャツを採用

情報発信

- ・館Twitterのフォロワー3万8千人
- ・劇場版にあわせ、映画館でCM放映

今後の方向性

- 県全体・町全体で、オンリーワンの魅力を活かしたまちづくりに取り組み、集客を伸ばした好事例
- 今後、博物館としての在り方(収蔵品の保管、バリアフリー対応、館内設備の充実)などが課題
- 空港と館を結ぶ連絡バスのほか、駅と館を結ぶバスを拡充したが、一層の充実は課題

青山剛昌ふるさと館の概要③ 地域を巻き込んだ取組

町全体を周遊してもらう工夫



コナン通り沿いの出会いの広場では、北栄町商工会が集合店舗のコナンの家米花商店街を運営。また北栄町観光協会が4～10月に巨大迷路を開催。



JR由良駅を「コナン駅」と愛称化。
コナンの装飾がなされた「コナン列車」も運行。



コナン駅 (JR由良駅) から青山剛昌ふるさと館まで約1.4kmを「コナン通り」として町おこし



コナン通りを楽しく周遊していただくため
オブジェ等を配置